

いきいき健康術 第92回

『凍結治療をご存じですか?』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は、国保京丹波町病院の前田武昌院長。できてしまつとなかなか治りにくい皮膚の角化性疾患に関するお話です。

皮膚の角化性疾患の代表的なものには、イボ（疣贅）、魚の目（鶏眼）、たこ（胼胝）などがあります。いずれも皮膚の角質層の厚みが増えてくる病気ですが、原因や病態が異なります。

疣贅は、皮膚にヒト乳頭腫ウイルス（約百種類ほどの亜型があり、子宮頸がんの原因となるウイルスもこの一つ）が感染することによって、角質が腫瘤状に隆起してきます。原因がウイルスなので、他の部位や他人にも移ることがあります。

鶏眼と胼胝は、皮膚への慢性的な圧迫刺激が原因となつて角質の肥厚をもたらします。

鶏眼は、肥厚した角質がくさび状になつて深部を圧迫して痛みを発生させます。症状が強いときには歩けないこともあります。

胼胝は、平坦な角質の肥厚で足以外の場所にもできます。（ペンだこ、竹刀だこなど）

これらの疾患の治療は

- ①サリチル酸系外用剤（イボころり、スピール膏貼付（保険適用あり））
- ②外科的切除（保険適用あり）
- ③レーザー治療（自費）
- ④凍結治療（液化炭酸ガス、ドライアイス、液体窒素）（保険適用）

などの方法がありますがいずれも一長一短があります。

②の外科的切除は、病変部をえぐるように切除しますが、切除部の縫合閉鎖は、まず不可能で、手足の指や顔面などにできたものの治療には適しません。

①サリチル酸系外用剤の使用は、日々のケアがちゃんとできないと難しいところがあります。

③の炭酸ガスレーザーによる焼灼は、効果も確実ですが、保険適用がなくコストがかかります。



病院長
前田 武昌 先生（京丹波町病院）

④の凍結治療は、液体窒素や液化炭酸ガスを用いて病変部を凍らせることにより細胞の壊死を起させて脱落させる方法です（壊死するまでに一〜二週間かかります）。

鶏眼などで芯が残つても、新しくできた基底細胞（皮膚の一番下層の細胞）によって芯が押し上げられてきますので、二〜三回の凍結治療の追加で治ゆが見込めます。

ただし、手術やレーザー治療と違い、すぐに結果が出ないことと、凍らせ方が少ないと期待した結果が出ないことなどがあり、治療結果にばらつきがあります。しかし、治つたあとが目立たないことや、外來で手軽にできるため広く行われている方法です。

当院でも液体窒素を用いた凍結治療を行っています。毎月の治療日が決まっていますので、希望される方はお問い合わせください。

お知らせ

京丹波町病院では、平成二十七年四月から、新たに毎週木曜日の午後一時から三時まで小児科の予防接種を行っています。 ☎86-0220